

いざという時に備えて 平成 30 年度大河原町総合防災訓練
大河原町小・中学校合同避難訓練



▲消火器の使い方を確認する初期消火訓練。



▲心肺蘇生法や応急担架の作り方を体験する応急手当訓練。

11月11日、大規模災害発生を想定した「総合防災訓練」が「尾形丁1・2区」「未広区」「保料区」「西原区」を訓練重点地域として、世代交流いきいきプラザで行われました。

訓練は大河原消防署、大河原警察署、陸上自衛隊船岡駐屯地の協力のもと、広報訓練、警備・交通規制訓練、避難・住民初期対応訓練、初期消火訓練、倒壊住宅救出訓練、土砂埋没救出訓練などのさまざまな体験型訓練が行われ、参加者の皆さんは災害時の対応を身をもって経験しました。(今月号表紙掲載)

また、11月16日には、町内全学区を対象とした大河原町小・中学校合同避難訓練も行われ、登校時の避難行動と、避難場所・避難所の確認が行われました。

いざという時に備え、日頃から防災減災の正しい知識と、避難場所などの確認を行いましょ。



▲小・中学生とともに登校時の避難行動を確認しました。

夫婦で子育てを楽しもう

子育て世代包括支援センター事業開始記念講演会

11月3日、世代交流いきいきプラザ多目的ホールを会場に、「子育て世代包括支援センター事業開始記念講演会(主催:大河原町)」が開催され、多数の子育て世代の夫婦が参加しました。

宮城大学看護学群教授の塩野悦子さんを講師に迎え、男女の脳の仕組みや考え方の違いにより起こる、産後夫婦のすれ違い「産後クライシス」と、それをうまく乗り切るための方法を、イラストや映像を交えてわかりやすく説明してもらい、子育て世代にとって、とても参考になる講演となりました。



▲自身も双子の母という塩野先生の話は、実体験も交えていて、とても説得力がありました。

リズムにのってダンス!

なかよし♪ひろば

10月30日、世代交流いきいきプラザ多目的ホールを会場に、町内保育園年長児の交流行事「なかよし♪ひろば」が開催されました。

今年は、サンリツ楽器所属の村上亜希先生を迎えて、ヒップホップダンスをテーマとしたいろいろなリズム遊びが行われました。一つ一つの遊びがダンスの動きになっていて、交流会が終わるころには、みんなすっかりダンサーに見える程上手になっていました。ダンスを通じてほかの園のお友達と笑顔で仲良く交流できました。



▲楽しみながらダンスを学んだ子どもたち。

工事の無事を祈って

大河原町学校給食センター整備工事 安全祈願祭

昭和53年4月のオープン以来、築40年を経過している大河原町学校給食センターは、毎年部分的に補修・修繕などを繰り返してきましたが、全体的に施設・設備の老朽化が進んだため、新たな給食センターの整備工事が進められています。

10月23日には、新設される大河原町学校給食センター建設地(金ヶ瀬字原地内)において、工事請負業者主催による安全祈願祭が行われました。

当日は、雲一つない晴天に恵まれ、町関係者、町議会議員、近隣の行政区長、及び設計者、施行者などの工事関係者約40名が参列し、来年8月操業開始に向け、工事の安全を祈念しました。

来年の2学期には、新設された給食センターから、さらに安全・安心で美味しい給食が町内小中学校5校へ届けられることとなります。



完成イメージ



▲新給食センター建設地で行われた安全祈願祭の様子。

国民の義務と権利を学ぶ 大河原小学校 選挙出前講座・租税教室

大河原小学校6年生を対象に、11月6日に「選挙出前講座(主催:大河原町明るい選挙推進協議会・大河原町選挙管理委員会)」が、9日に「租税教室(主催:大河原地区税務協議会)」が行われました。

選挙出前講座では、町選挙管理委員会の職員が講師となり、なぜ選挙を行う必要があるのか、選挙制度や歴史などについて説明しました。後半には、校長先生を選出する模擬選挙も行われ、クラス代表が立候補者として演説を行い、児童全員で投票を体験しました。租税教室では、町税務課職員が講師となり、税金がなぜ必要なのか、どのように使われているのかなどについて説明したほか、1億円の重さ体験では、体験した児童は「結構重い」と、予想以上の重さに驚いた様子でした。児童は、今回の授業により選挙や税金に関心が高まったようでした。



候補者名を記載した投票用紙を慎重に投票箱へ。

1億円の实物大見本で実際の重さを体験する児童。

確認しよう、災害時の連絡方法

「災害時連絡方法のてびき」寄贈

11月13日、日本公衆電話会宮城支部から、町へ「災害時連絡方法のてびき」600部と災害用伝言ダイヤルのチラシ入りミニテッシュ300個が寄贈されました。

このてびきは、災害発生時の災害用伝言ダイヤルなどを使用した安否確認方法等を紹介しており、同支部の藤原茂支部長から齋町長へ「安全安心のために活用してほしい」と手渡されました。

寄贈されたてびきは、自主防災組織などに配布し、災害時の備えとして活用します。



▲てびきを手渡す藤原支部長と齋町長。